

母親クラブによる 全国一斉「公園の安全点検」(ご報告)

公園は地域のリビングルーム

- ・ 遊び場遊具等点検
- ・ 公園の防犯点検

全国地域活動連絡協議会が都道府県・指定都市・中核市の各地域活動連絡協議会を通して全国の母親クラブに呼び掛け実施してきた「遊び場遊具の点検」と「公園の安全点検」も、平成21年度でそれぞれ7回目と4回目を数えました。今回も多くのクラブ、多くの会員の皆様にご協力をいただきました。

点検結果票と合わせて、日頃の活動報告や新聞記事、写真をパソコンで綺麗に編集しコメントを入れた手作りの報告書・独自の点検報告書等を送っていただいたクラブもありました。

お忙しい中でのご協力に改めて感謝申し上げます。

この活動は毎年報告書にまとめて各都道府県・指定都市・中核市の行政担当者にもお送りしていますが、今回その内容の一部をご報告いたします。

平成22年度も引き続き点検活動へのご協力をお願いいたします。
よろしく願いいたします。

平成22年6月

全国みらい子育てネット(母親クラブ)事務局



・「遊び場遊具等点検」

1．点検週間の趣旨

夏休み前の7月第2日曜日から1週間を安全点検週間として全国一斉に活動し、その結果を遊び場の管理者に報告して子どもの事故防止活動に寄与しようとするものです。平成15年度より始め今年度で7年目となり、平成16年度からは幼児や小学生の積極的な参加を呼び掛けてきました。

2．点検結果と取り組み状況

全国32の都道府県・指定都市・中核市地域活動連絡協議会に属する916の母親クラブが1,830か所の公園・遊び場の遊具を点検しました。

そのうち1,250か所に不具合が見られましたが、その不具合率は68.3%で点検活動開始以来初めて70%を下回りました。

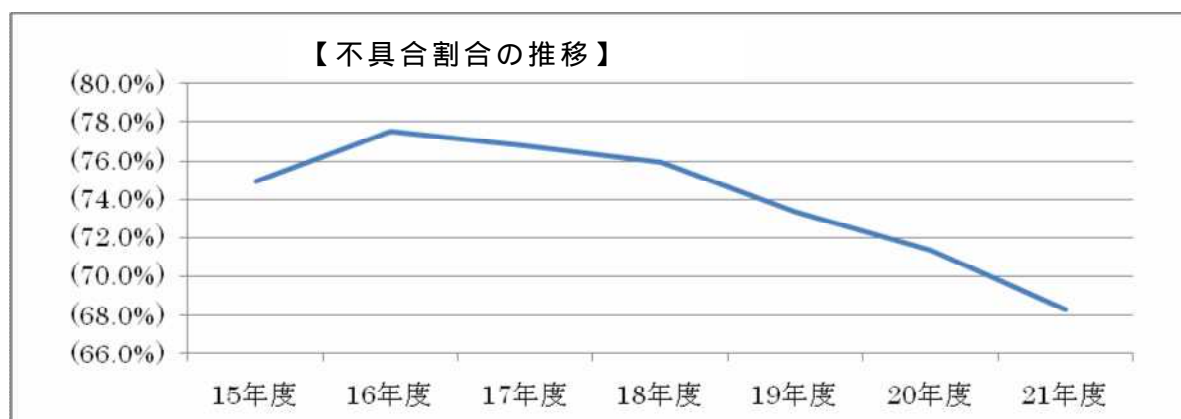
延べ参加者は16,421人で、うち母親クラブ会員は8,193人でした。

参加クラブ数は昨年に比べ220クラブ減少しましたが、点検か所数、延べ参加者数、クラブ会員数のいずれもが前年を上回りました。

【点検か所数と不具合状況】

	点検か所	不具合なし	不具合あり
平成21年度	1,830	580	1,250 (68.3%)
平成20年度	1,723	494	1,229 (71.3%)
平成19年度	1,891	504	1,387 (73.3%)
平成18年度	1,858	447	1,411 (75.9%)
平成17年度	1,901	441	1,460 (76.8%)
平成16年度	1,396	314	1,082 (77.5%)
平成15年度	1,426	357	1,069 (75.0%)

【不具合割合の推移】

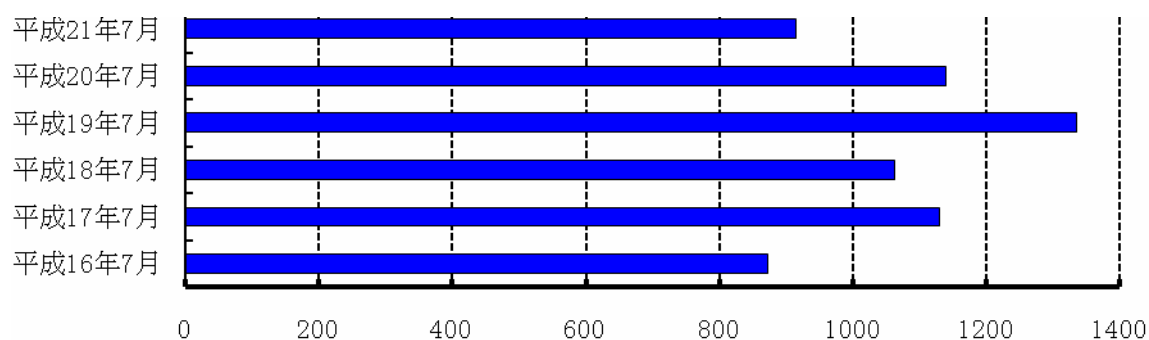


遊具の点検は毎年継続して行いましょう。地域の遊び場環境改善のために全国的な組織で取り組んでいるのは母親クラブだけです。

【都道府県・指定都市・中核市別の取り組みクラブ数と公園数】

都道府県・市	クラブ数	か所数	都道府県・市	クラブ数	か所数	都道府県・市	クラブ数	か所数
北海道	32	52	石川県	108	192	山口県	81	177
青森県	37	60	福井県	100	198	香川県	11	24
宮城県	31	120	静岡県	14	27	松山市	13	24
仙台市	41	52	愛知県	54	179	北九州市	20	68
山形県	40	83	兵庫県	29	69	佐賀県	11	14
福島県	28	45	和歌山県	11	17	熊本県	9	15
茨城県	34	62	鳥取県	7	7	大分県	24	36
栃木県	12	15	島根県	7	10	宮崎県	33	48
群馬県	24	43	岡山県	38	70	鹿児島県	2	5
東京都	6	10	広島県	4	10	沖縄県	13	18
新潟県	4	4	広島市	38	76	合 計	916	1,830

【点検活動参加クラブ数の推移】



【遊び場区分別点検か所数】

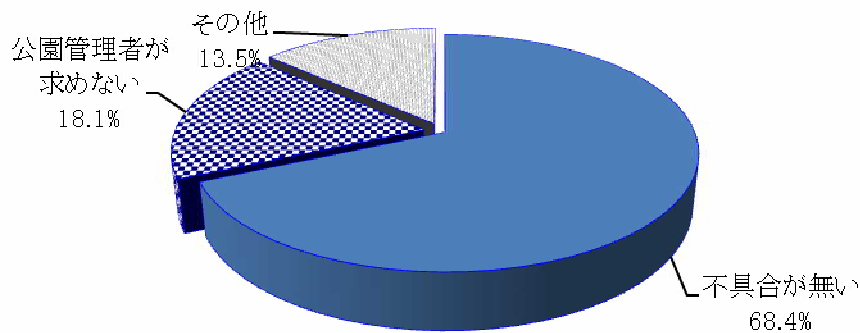
【参加者数および助言等を受けて点検したか所数】

延べ参加者数		16,421人
うち、母親クラブ会員		8,193人
助言または共同で点検した箇所	自治体の公園、健全育成担当者	106箇所
	児童館・児童センターの長、児童厚生員	464
	主任児童委員、児童・民生委員	153
	社会福祉協議会等職員	18
	幼稚園・保育園・小中学校の先生・保育士	164
	町内会・自治会・管理組合等	196
	幼稚園・保育園・小学校の保護者会・PTA	297
	子育てNPO・市民団体	62
	その他	153
	[合計]	1,613箇所

3. 点検結果の遊び場管理者への報告状況

点検結果を遊び場管理者へ報告しない点検か所は全体の5割を超えています。その理由の7割が「不具合がない」となっています。

	報告か所数 [割合]					
	21年度	20年度	19年度	18年度	17年度	16年度
結果の報告無し	965 [52.7%]	851 [49.4%]	900 [47.6%]	649 [34.9%]	740 [38.9%]	119 [8.5%]

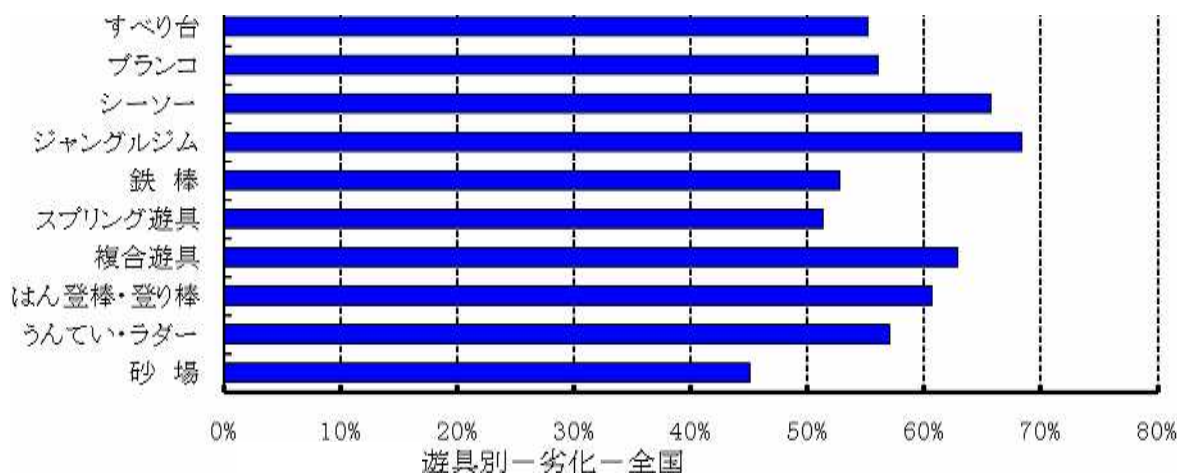


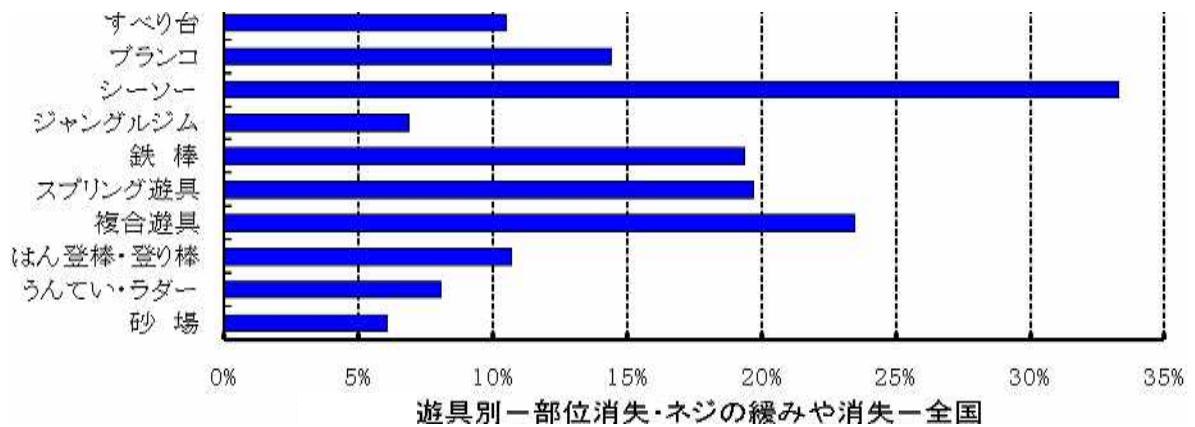
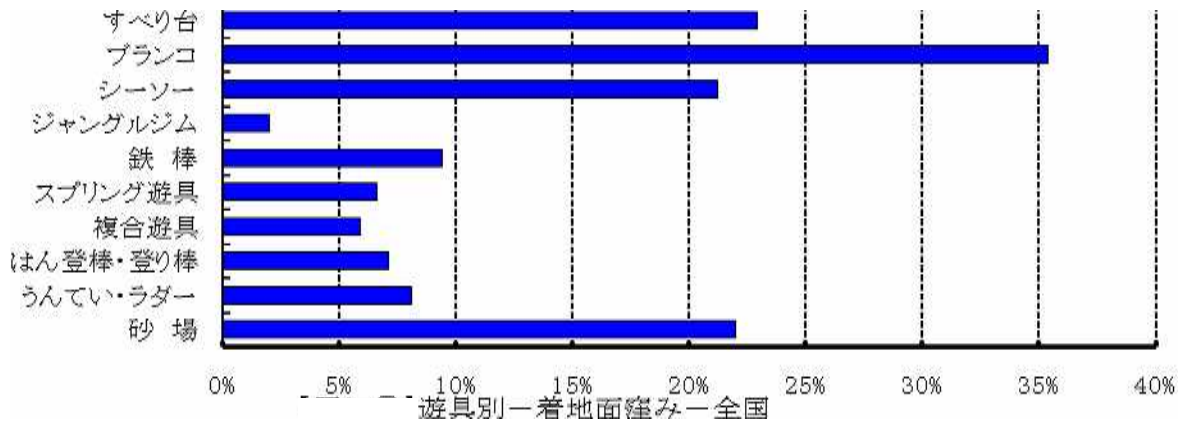
点検後に管理者に報告しない理由 (計526クラブ)

不具合の有る無しに関わらず点検結果を報告して、母親クラブと行政等の遊び場管理者との密接で成熟した連携を保っていくようにしましょう。

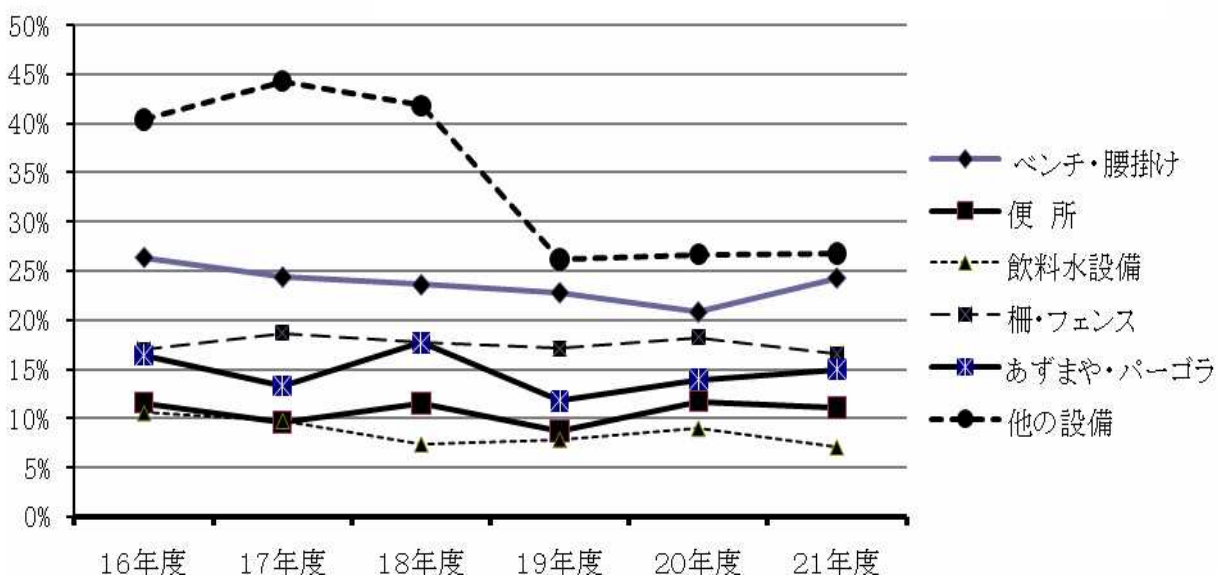
4. 遊具の点検結果

遊具にみられる顕著な不具合は「腐れ・ひび・砕け等の劣化」、「着地部の窪み」、「遊具の一部消失・ネジの緩みや消失」の3点です。「劣化」の状況をみると、砂場を除く全ての遊具に50%以上の不具合が見られます。また、「着地部の窪み」の状況をみると、ブランコが群を抜き、すべり台、砂場、シーソーが高い割合となっています。「部位の消失・ネジの緩みや消失」は、シーソーが最も高い率であり、複合遊具、スプリング遊具、鉄棒が次いでいます。



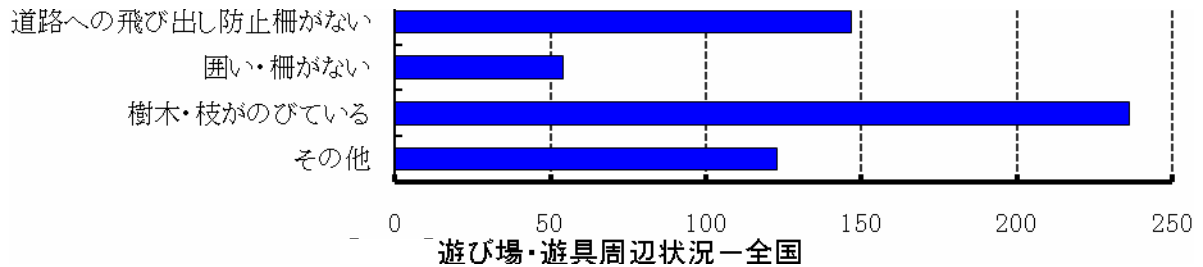


【設備別不具合の割合】



5 . 環境・状況の点検結果

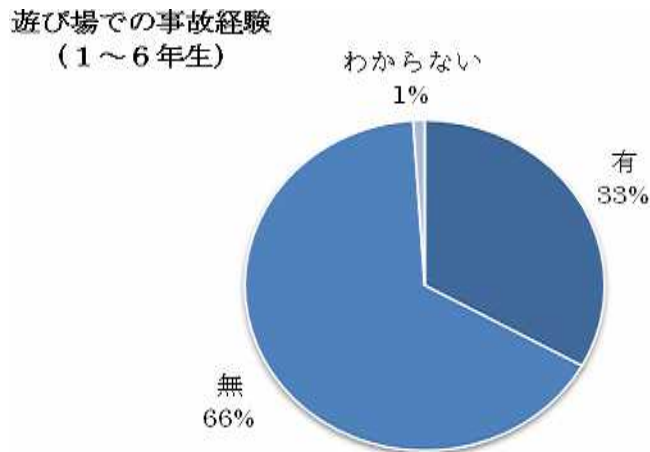
コンクリート・ブロック舗装などの硬い設置面に配置されていたりブランコ周辺に柵が無いとの報告があります。周辺の環境では樹木・枝が伸びている、道路への飛び出し防止柵が無い遊び場も少なくありません。周辺の状況ではゴミの散乱について多く指摘されています。



6 . 小学生対象アンケート

点検に参加した小学生は延べ 3,963 人にのぼりました。そのうちアンケートに協力してくれたのは男児 1,571 人、女児 1,733 人、計 3,371 人でした。

アンケートの結果、約 3 割が遊具でケガをしたことがあると答えています。



遊具の不具合を子ども自身が気づき、その危険を避ける力を育てることも大切です。小学生、中学生に積極的に参加を呼びかけよう。

7 . 母親クラブの取り組み

地域の遊ば場の安全は管理者のみでは確保できません。遊ば場における子どもの事故防止、遊具の安全管理のために、母親クラブの全国一斉「遊ば場安全点検」活動や普段の安全点検活動が、管理者との連携による安全点検活動のモデルとなっています。

【監修：玉川大学教授 荻須 隆雄】

・「公園の安全点検」

1. 調査の目的

この調査は、子どもたちの大切な生活空間である地域の公園を、犯罪の危険から守られた安全なものにするために、2009年度に母親クラブ等で取り組んだ「公園の安全点検」の記録です。全国966クラブで7761人の参加で1582箇所の公園で実施しました。

2. 点検で何がわかったか

公園の内にはどんな障害があるか

3分の1の公園では、中に入ると子どもの姿がすっぽり隠れてしまう物があります。具体的には「トイレ」「樹木」「遊具」「物置（施錠のない）」等が挙げられます。

公園内部にあって利用者相互の視線を遮ってしまう障害物は5割近くの公園に存在します。大きな公園ほどそうした物は多く存在し、具体的には「樹木」「トイレ」「地形の高低差」「建物」等が挙げられます。

結果を踏まえて皆で取り組もう

公園にこうした障害物があったら、どうしたら安全になるか皆で検討し行政の公園課等に相談しよう。

公園の管理や利用はどうなっているか

公園の管理状況では3分の1以上の公園で何らかの問題を抱えています。具体的には「落書き」「トイレの汚れ」「遊具の破損」「樹木の剪定」「ゴミの散乱」の順に住民の満足度は低下します。公園の種別では身近な公園ほど管理状況が良いといえ、公園管理への住民参加が重要といえます。

1日の公園の利用は、午前中に親子を中心にした高い利用が見られ、正午前後には一旦減少するが、午後の15時前後には学童を中心に利用のピーク時を迎え、夕暮れと共に大きく減少します。これは季節を問わずみられる公園利用の基本パターンです。

具体的な利用の仕方は年齢階層によって大きく変化します。幼児は「遊具遊び」が高く次いで「フィールド遊び」「乗り物遊び」と続く。小学生にもなるとこの3種の遊びは均等化します。中学生になると友達と雑談したりする場所として利用されるようになり、青年になるとそうした利用に1人でぼんやりする場所になったりスポーツの場所としての利用が挙がってきます。

大人（壮年）になると青年期の利用に加えて子どもに付き添っての利用が高くなる。高齢者になると付き添いの相手が子どもから孫に変わると共にスポーツや雑談といった利用が大人（壮年）より高くなります。こうした傾向に季節や公園の種別による差は余りありません。

地域の各種団体の利用では「子ども会・母親クラブ」と「自治会・町会」等が中心で「学校・保育園」「老人会」等となっています。活動としては「花壇づくり・世話」「公園の清掃管理」「各種行事」が主なものです。利用頻度は毎日のように利用している団体が1割強はあります。利用内容や頻度については各種団体の性格によって些かの差が見られます。また、毎日のように公園に顔を見せる住民は7割近くの公園に存在します。

結果を踏まえて皆で取り組もう

公園の管理に問題があったら行政の公園課等と相談しよう。

どんな時に公園の利用がまばらになったりして公園が危険な状況なるかを話し合おう。

公園課や警察等に危険な時間帯を中心としたパトロール等を相談する。

公園の安全には様々な地域住民の利用を促すことが大切です。

子どもだけでなく地域の人々にとっても魅力のある公園の利用について検討し、町会や地域の各種団体、更には公園課等にも協力を呼び掛ける。

公園を利用する団体や地域住民で「公園利用者の会」等を作って『公園を地域のリビングルーム』に育てていこう。

外周部から公園は見通せるか

公園の外周部から公園内部への視線を遮る物が4割近くの公園に存在します。障害物としては「樹木」が4割を占めそのなかでも高木が低木より多い。接園部での高木の枝下し等の不十分さを示している。次いで「建物」でトイレの占める割合が高い。「集会所や公民館」「物置」等の公園と一体的に建設される建物の比率も高く、建設時に位置か構造についての配慮が必要になっています。「地形の高低差」や「築山」等が障害になっている場合も少なくなく、公園設計時に防犯の視点が求められています。

接園部の建物が公園に対して開口部を大きくとり、そこが雨戸やカーテンで閉ざされていない公園は4割であり、過半の公園で接園部の建物との関係で課題を抱えています。

接園部に日頃人気のない土地が存在する公園は4割に近い。具体的には「駐車場」「農地」「空き地」等があります。広域的な集客施設が存在する公園も2割を占める。他方、公園の安全要因にもなる日頃地域の人が集まってくるような施設が存在する公園は6割近くある。具体的には「集会所や公民館」「児童館」「幼稚園や保育園」「小学校」「バス停」等があります。

結果を踏まえて皆で取り組もう

障害物が公園内であれば公園課と、公園外であれば所有者の協力を得られるように努めよう。

接園部の住民の要望も取り入れつつ、公園と接園部の住民の関係を改善しよう。

人気のない土地等の所有者には日頃の管理に気をつけるよう申し込んでおこう。

地域の人々が集まる施設は公園の安全に大切です。バス停等は公園の近くに移すことも検討しよう。

接園部に路上駐車は多くないか

接園部の利用状況で問題とするのは道路の駐車問題です。駐車する自動車によって公園内への視線が遮られる場合が少なくありません。3分の1の公園でこうした路上駐車が見られ、その頻度も低くありません。

接園部に通過交通の多い道路が存在する公園は4割もあります。交通事故の心配だけでなく、加害者の侵入や逃避がし易い公園といえます。

結果を踏まえて皆で取り組もう

公園外周の道路は駐車禁止にするよう住民相互で申し合わせよう。必要ならば警察等とも協議しよう。

通過交通の多い道路では公園への出入口を移動する等の工夫をしよう。

公園の立地に問題はないか

公園の立地する周辺の地域の状況としては、3割近くの公園で広域的な集客施設が存在します。具体的には「商業施設」「公共施設」「工場」「鉄道駅」「観光娯楽施設」等がです。周辺地域に農地や空き地が多く住居が疎らな公園は2割近くあります。

地域の人々が利用するには公園の位置が不適切な公園も2割近くあり、住宅地建設等における公園の位置づけに課題が残されています。

結果を踏まえて皆で取り組もう

農地や空き地については地主の協力を得て市民農園等の利活用を検討する。商工会等の業者とも話し合っ公園等の防犯活動への協力やイベント等で公園の利活用を促していこう。

不適切な位置の公園については別に適地があれば公園の移設等も行政と相談する。

3. 点検活動に参加した人々の意見は？

子どもを犯罪から守るための様々な提言

提言としては大きく「A - 子どもと親の係わり」に関する事、「B - 地域住民で子どもを守る」に関する事、より具体的に「C - 環境整備をすすめる」に関する事、「D - その他」に大別されます。

更に「A」は4つに、「B」は6つに、「C」は5つに、「D」は4つに細分されます。

大分類で見ると「B 地域住民で子どもを守る」が最も多く半数の人が挙げています。子どもは地域で守ることが多くの人々の共通の認識になっているといえます。次いで「C - 環境整備をすすめる」で4割近くの人々が挙げ「A - 子どもと親の係わり」が35%と続きます。

小項目でみると「B - 3、子どもを守る地域の目・地域の力を高める」を3人に1人が挙げ、次いで「C - 1、遊具や樹木等の整備」で見通しの確保を挙げています。この他に「A 4、子どもを1人にしない」「A - 3、安全について子どもに注意する」が続いています。

やはり、子ども自身への注意で安全を確保するには大きな限界があることをうかがわせており、親自身や環境を含めた地域社会の子育て力のレベルアップを強く求めている様子が顕著にうかがえます。

(具体的な内容は『全国一斉「公園の安全点検」結果報告書 平成22年3月』に詳しく記載しています。)

活動に参加して何を感じたか

参加者の自由意見には前項の提言の他に、この活動に参加した「感想」を記入してもらいました。感想は大別して、主に「A 事故の意識の成長」に関するもの「B 地域社会へ関心の広がり」に関するもの「C - 取り組みへの要望」に関する3つに区分されます。更に「A」は3つ、「B」も3つ、「C」は2つに細分されました。

(具体的に細分された各項目ごとの典型的な意見内容は『全国一斉「公園の安全点検」結果報告書 平成22年3月』に記載しています。)